



野村 万作



野村 萬齋



石田 幸雄



野村 裕基



六五〇年の歴史を誇る、日本古来の伝統芸能。芸を追求し続ける人間国宝・野村万作、多彩な才能を發揮する野村萬齋が、室町時代から続く最古の喜劇「狂言」の世界へ誘います。

# 野村万作 新狂言の会 狂言三代

狂言 孫 賀

狂言 因幡 堂

狂言 佐渡 狐

年貢を納めに都へ上る途中で道連れになった佐渡と越後のお百姓。佐渡に狐のいるいを巡り、賭けをすることになり、奏者「取次」の役人に判定してもらおうのだが……。

大酒飲みの妻に愛想を尽かした夫妻の留守中に離縁状を送りつけ、新しい妻を得ようと因幡堂の薬師如来に願掛けのお籠りをす。そこへ腹を立てた前妻がやってくる……。

今日はめでたい賀入り(結婚後初めて賀が妻の実家へ挨拶に行くこと)の日。舅と太郎冠者は、日頃何かと口うるさい祖父を外出させ、そのすきに祝儀を済ませてもらおうと策を練るが……。

2023.

# 7/4 火

開場 18:30 開演 19:00

黒部市国際文化センター

## コラーレ 〈野外能舞台〉

一般……………5,000円

高校生以下……………1,000円

障がい者手帳をお持ちの方……………4,000円

チケット一般発売日 / 5月7日(日) 9:00~

- 当日は18時20分に、チケットの「整理番号」順に整列の上、順次ご入場いただけます。チケットはコラーレだけで発売いたします。
- 未就学児の入場はご遠慮願います。
- 雨天が予想される場合は雨合羽等をご用意ください。天候によっては、会場がカーターホールに変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。
- 車椅子の方、補助犬をお連れの方は、座席の相談を承りますので、コラーレまでお問い合わせください。
- この公演は黒部市の助成により低料金でお楽しみいただけます。

- 主催：公益財団法人黒部市国際文化センター
- 共催：チューリップテレビ
- 後援：黒部市 黒部市教育委員会 北日本新聞社



●お問い合わせ●

コラーレ 〒938-0031 黒部市三日市20番地

TEL.0765-57-1201 FAX.0765-57-1207

info@colare.jp

http://www.colare.jp/

ホームページ公式サイト

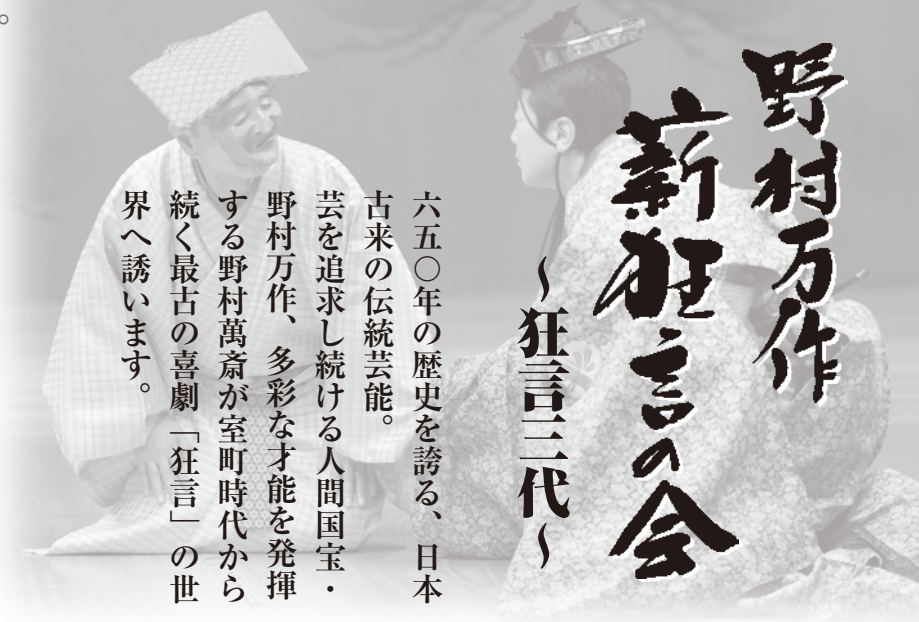
LINE公式アカウント

日本最古の喜劇「狂言」をご堪能ください。

# 野村万作

## 新狂言の会

（狂言三代）



六五〇年の歴史を誇る、日本古来の伝統芸能。

芸を追求し続ける人間国宝・野村万作、多彩な才能を発揮する野村萬斎が室町時代から続く最古の喜劇「狂言」の世界へ誘います。

### 野村万作

狂言師

一九三二年生。重要無形文化財各個指定保持者（人間国宝）、文化功労者。日本芸術院会員。祖父・故初世野村萬斎及び父・故六世野村万蔵に師事。早稲田大学文学部卒業。「万作の会」主宰。軽妙洒脱かつ緻密な表現のなかに深い情感を湛える、品格ある芸は、狂言の一つの頂点を感じさせる。国内外で狂言普及に貢献。ハワイ大・ワシントン大では客員教授を務める。狂言の技術の粋が尽くされる秘曲『釣狐』に長年取り組み、その演技で芸術祭大賞を受賞したほか、紀伊國屋演劇賞、日本芸術院賞、紫綬褒章、坪内逍遙大賞、朝日賞、旭日小綬章、中日文化賞、ジャパン・ソサエティ賞等多数の受賞歴を持つ。近年では、『榎山節考』の再演に取り組み、大きな成果をあげている。『狂言を生きる』（朝日出版社）を刊行。

### 野村萬斎

狂言師

一九六六年生。祖父・故六世野村万蔵及び父・野村万作に師事。重要無形文化財総合指定保持者。東京藝術大学音楽学部卒業。「狂言こころ乃座」主宰。国内外で多数の狂言・能公演に参加、普及に貢献する一方、現代劇や映画・テレビドラマの主演、古典の技法を駆使した作品の演出など幅広く活躍。各分野で非凡さを発揮し、狂言の認知度向上に大きく貢献。現代に生きる狂言師として、あらゆる活動を通して狂言の在り方を問うている。九四年に文化庁芸術家在外研修制度により渡英。芸術祭新人賞・優秀賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞、紀伊國屋演劇賞、毎日芸術賞千田是也賞、読売演劇大賞最優秀作品賞、観世寿夫記念法政大学能楽賞、松尾芸能賞大賞等を受賞。石川県立音楽堂邦楽監督。東京藝術大学客員教授。全国公立文化施設協会会長。

### 石田幸雄

狂言師

一九四九年生。野村万作に師事。重要無形文化財総合指定保持者。すでに数多くの優れた舞台歴を持つ野村家の重鎮。大曲の『三番叟』『釣狐』『花子』をすでに初演。国内外で狂言・能公演に多数参加、普及に貢献している。主宰していた「雙ノ会」で芸術祭大賞、個人で観世寿夫記念法政大学能楽賞受賞。大胆かつ緻密な演技で、古典はもとより「国盗人」など新しい試みの舞台でも存在感を見せる。普及公演での的確な解説にも定評がある。

### 野村裕基

狂言師

一九九九年生。野村萬斎の長男。祖父・野村万作及び父に師事。慶應義塾大学法学部卒業。能楽協会会員。三歳の時に「鞍猿」で初舞台後、子方として国内外で多数の舞台に出演。修業を続け、『三番叟』『奈須与市語』、二〇二二年一〇月に『釣狐』を抜き、『万作の会』の若手狂言師の一人として舞台を務めている。

## 新狂言 番組

解説 石田幸雄

### 佐渡狐

年貢を納めに都へ上る途中で道連れになった佐渡と越後のお百姓。佐渡に狐のいるいないを巡り賭けをすることになったが、実は佐渡に狐はおらず、狐を知らない佐渡のお百姓は、奏者（取次の役人）にワイロを使い味方についてもらう。しかし奏者の「佐渡に狐はいらぬ」という判定に納得のいかない越後のお百姓に、狐の形格好を問いただされ……。越後のお百姓の追及に必死で答える、佐渡のお百姓と奏者の連携プレイが見どころです。世相を風刺しつつ、中世の人々のたくましく生きる姿が笑いの中に描かれた狂言です。

奏者 野村萬斎

越後の百姓 中村修一  
佐渡の百姓 野村裕基

### 因幡堂

大酒飲みの妻に愛想を尽かした夫。たまたま里へ帰った妻に離縁状を送りつけ、新しい妻を得ようと因幡堂の薬師如来に願掛けのお籠りをす。そこへ腹を立てた前妻がやってきて、「西門の階に立った女を新しい妻にせよ」と偽のお告げをして去る。目を覚ました夫は薬師如来のお告げと思ひ込み、喜んで西門に向かうのだが……。中世庶民の因幡堂信仰がうかがわれる狂言です。たくましくかわしい女と、気弱な夫の対比が笑いを誘います。

夫 高野和憲

妻 岡 聡史

### 孫 智

今日ほめてたい智入り（結婚後初めて智が妻の実家へ挨拶に行くこと）の日。舅と太郎冠者は、日頃何かと口うるさい祖父を外出させ、そのすきに祝儀を済ませてしまおうと策を練る。それを聞いた祖父は怒り出し、結局同席することになる。いよいよ智がやってくると、大張りきりの祖父は、舅そっちのけで盃事に口を出し……。祖父まで登場する珍しい智入り狂言です。華やかでめでたい雰囲気の中で、デフォルメされた老人の振舞いが効果的に描かれています。

祖父 野村万作

舅 石田幸雄  
太郎冠者 月崎晴夫  
智 飯田 豪